

事業の背景・目的

「ふれあいの里」は、ホタル・ホトケドジョウ等が生息し、市街地区域に隣接する水辺として貴重な場所であることから、平成16年「秦野市生き物の里」2号として指定されている。ヤマビルの発生、木道の老朽化のため生物観察に支障が出ている。
そこで、生物観察を容易にし、近隣小学校の環境学習の場としての活用の再開及び既存の事業と連携しエコツアー事業を実施し、自主財源を獲得するため、整備を行うものです。また、近年確認されていないヤマアカガエルの産卵地として池の整備を行い、池の管理等生物多様性に配慮した管理の継続を図るもの。

事業の内容

事業① ふれあいの里木道等整備事業

・ふれあいの里内を観察するため、老朽化した木道の修繕及び新たな木道の設置、コンクリート板の敷設により歩廊を整備した。地域の造園業者の協力をいただき、整備を実施した。

【木道整備作業】



【コンクリート板設置作業】



事業② ふれあいの里エコツアー事業

・「秦野名水名人講座」と連携したエコツアーの計画
・生物観察を行い「ふれあいの里」の生物多様性や湧水との関係などの説明を盛り込むエコツアープログラムの実現を図る

事業③ 生物多様性に配慮した管理事業

・ふれあいの里管理運営協議会及び近隣里山活動団体による草刈り、倒木の処理等を行った。
・近隣小学校の児童の学習活動の一環でふれあいの里の池等の整備を児童、市、協議会で行った。
・令和7年1月の調査でヤマアカガエルの成体、3月オタマジャクシが確認された。

得られた成果

ア 木道の修繕 30m、木道の新設 20m、コンクリート板敷設、通路整備150m実施

イ 木道の整備の完成により、秦野市で実施している「秦野名水名人講座」と連携したふれあいの里エコツアーを企画につなげることができた

また、市が実施しているはだのエコスクールで、「水生生物の観察と水質検査」をテーマにふれあいの里を活用した環境学習のために場所を提供した（エコスクールの内容もエコツアーの参考にする）

ウ 生物多様性に配慮した適切な管理により、ヤマアカガエルの成体及びオタマジャクシを確認した

【小学生が参加した池・水路の整備の様子】



【ヤマアカガエル】

